

令和 4年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R04年度	R05年度	R06年度
活動 指標	舗装箇所	箇所	目標	4.00	4.00	4.00
			実績	4.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	舗装延長	k m	目標	22.40	22.90	23.40
			実績	22.40	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	農道を整備することにより、出荷物の荷傷みが軽減され、生産性が高まるとともに、農村地域の生活環境の向上が図られる。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	当事業は公共道路である農村地域の市道の舗装整備であることから、市の事業として実施する必要がある。
	手段の妥当性	A 妥当である	整備する農道の状況に応じて、測量や設計業務を直営で行うか委託するかを適宜判断するとともに、農道の舗装整備に際しては、国が定めた基準に準じて実施している。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	現場測量や工事設計及び積算を職員が直営で行うことによって、コスト縮減を図っている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市道は公共施設であり誰でも通行することが可能であることから受益者の偏りはない。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	毎年度、4路線程度の舗装整備を実施しており、整備された路線や路線延長は年々増加しており、農村環境の向上に貢献している。
進捗度	事業の進捗	C 遅れている	年次計画により舗装整備を実施しているが、地元からの要望件数も多く、すべてに対応することが困難であるため、未整備路線も多く残されている。 また、工事費の高騰により、整備延長が短くなってきている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
農道整備事業は計画的に行っており、その成果である整備延長は着実に年々延びている。 しかし、未整備路線は数多く残っていることから地元要望に多く応えられるようコスト縮減を図っていく。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
農道整備は多くの地元要望があることから、今後も年次計画によって実施していくが、工事費の高騰により整備延長が短くなることが予想される。 コスト縮減にも限界があることから、財源確保も含めて検討していかなければならない。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 地元からの農道整備の要望が上がっているが、未整備の路線も多く残されているため、財政状況を勘案しながら計画的に事業を進めていく。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。